

## アイデア部門

氏名	都道府県	タイトル	本文
横山 優美子 (よこやま ゆみこ)	北海道	(オフィスに通わなくても) 老後でテレワーク	寿命が延びている昨今、65才で定年は早すぎる、と思っている人は多いはず。ワークシェアリングを発展させた「老後テレワークシェアリング」が可能になると良いのではないかと。テレワークで出来る仕事の一端を、オールドパワーで担ってもらいたい。まだまだ働きたいと希望する人に、通常オフィス勤務とは別の方法で、社会に参加できる仕事の形があると良いと思う。老後破産が心配とってる人にも新たな選択肢となる可能性がある。
田中 咲希子 (たなか さきこ)	神奈川県	病院内のテレワークスペース	子どもが熱や病気で病児保育をお願いしなくてはいけないとき。家族が入院しているとき。親の介護で入院先の病院へ行くとき。体調が悪い家族の側を離れるのは心配という時でも、病院の片隅でテレワークができれば、何かあったときにすぐ病室へ行くことができます。入院中は常にベッドサイドにいる必要はない場合も多いものです。そんなときに、病院の片隅でネットをつないでテレワークができれば、便利ではないでしょうか。

## エピソード部門

氏名	都道府県	タイトル	本文
上田 玲奈 (うえだ れいな)	大阪府	重度身体障がい者でも責任のある仕事出来る喜び	私は進行性の難病です。通勤の頃は、毎日の身支度が大きな負担となり、病気の進行も早く、「仕事と身体どちらを選ぶか」という環境の中で生きていました。しかし、テレワークでは身体への負担が少ない状況で働ける為、責任のある仕事も買って出る事が出来る様になり、自身の存在意義を大きく感じる事が出来ています。「障がい者 = 助けてもらうばかり」という私の概念は、テレワークによる仕事面のバリアフリー化で覆されました。
小川 嘉代子 (おがわ かよこ)	茨城県	「4人の子育てと仕事の両立は無理っ」のピンチを救った夫婦のテレワーク・リレー	4回目の職場復帰時のエピソードです。子ども達は、0歳、4歳、小1、小2。赤ちゃんのお世話と小1の壁、、、どっちかでも大変なのに、我が家は、それが4人…。「子ども達のお世話、通勤・仕事をこなす自信がない」と主人に相談したら、主人も私と一緒に会社にテレワーク申請をしてくれました。私は月・水・金と週の3日間、主人が火・木の2日間をテレワーク勤務、私の職場復帰の立ちあがりの時期をサポートしてくれました。テレワークのお陰で、夫も子育てを楽しみ、夫婦で家事をシェア、私は仕事を続ける事ができました。
寺田 郷子 (てらだ きょうこ)	北海道	ワークライフバランス～仕事も家族も自然もご近所づきあいも	自然豊かな田舎町に住み、早朝はダイヤモンドと見まごう雪景色の中を東京から移住してきた老母と散歩する。9時。パソコンを開けば全国の尊敬する仲間たちがいるプロジェクトの一員だ。パートナーの転勤が契機となり、12年半は完全在宅勤務をしてきた。今、週2日はコワーキングスペースのオフィスブースに出勤、3日は在宅勤務。在宅勤務歴13年半。子どもと親をそばで見守りながら、仕事も自然もご近所づきあいもある。